

岩見沢市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

岩見沢市は、北海道の中西部に位置する空知管内の中心都市であり、人口は75,522人(令和5年12月末現在)、総面積は481.02km²で、市域の西部には平野が広がり、東部には低山性の山々が連なっている。

人口減少や少子高齢化、自家用車の普及などによる路線バス利用者の減少が続いており、路線の維持確保のための市補助金の負担も増加していることから、公共交通のマスタープランとして令和3年6月に「岩見沢市地域公共交通計画」を策定した。

岩見沢市の公共交通は、札幌や旭川と結ぶJR函館本線、苫小牧と結ぶJR室蘭線、南空知の他市町につながる地域間幹線系統を幹線として、それらと接続するフィーダー系統(市内:路線型)やデマンド型乗合タクシーなどの公共交通を組み合わせ、生活交通ネットワークの構築を進めているところである。

また、令和4年4月からは、岩見沢市の東側に位置する山間地域(通称:東部丘陵地域)において運行していた中央バス路線及び市営バスの廃止に伴い、新たな生活の足として、日の出交通(株)による「東部丘陵線コミュニティバス」の運行が開始されたところである。

市民の生活上、必要不可欠な移動手段を確保するため、地域公共交通確保維持事業により、路線バス(市内線)及び東部丘陵地域を運行する路線を確保・維持することが必要となっている。

生活交通確保維持改善計画の目標

	項目	目標値(R5)
市内バス路線の目標	利用者数	850,000人/年
	収支率	75.0%
東部丘陵線の目標 (R5.10月～R6.9月)	利用者数	14,000人
	経常収支	▲11,800千円以内
	自治体負担額	9,400千円以内

地域公共交通の現況

- ・JR函館線(岩見沢駅、上幌向駅、幌向駅)
- ・JR室蘭線(岩見沢駅、志文駅、栗沢駅、栗丘駅)
- ・北海道中央バス(株)(市関係路線運行12路線)
- ・日の出交通(株)(市内線運行1路線)
- ・(有)新篠津交通(市内運行1路線)
- ・市営住民混乗バス(6路線)
- ・デマンド型乗合タクシー(4地区)
- ・タクシー(4社)

協議会開催状況

■令和5年6月27日 令和5年度第1回協議会
(主な協議事項)

- ・地域公共交通確保維持事業の計画

■令和6年1月19日 令和5年度第2回協議会
(主な報告事項)

- ・中央バスの減便について
- ・東部丘陵線のダイヤ変更について

(主な協議事項)

- ・地域公共交通確保維持改善事業における事業評価

令和5年度事業概要

■フィーダー系統の運行

- ・北海道中央バス(株)
かえで団地循環線、日の出・栄町循環線、
鉄北循環線、南町・春日循環線
- ・日の出交通(株)
東部丘陵線

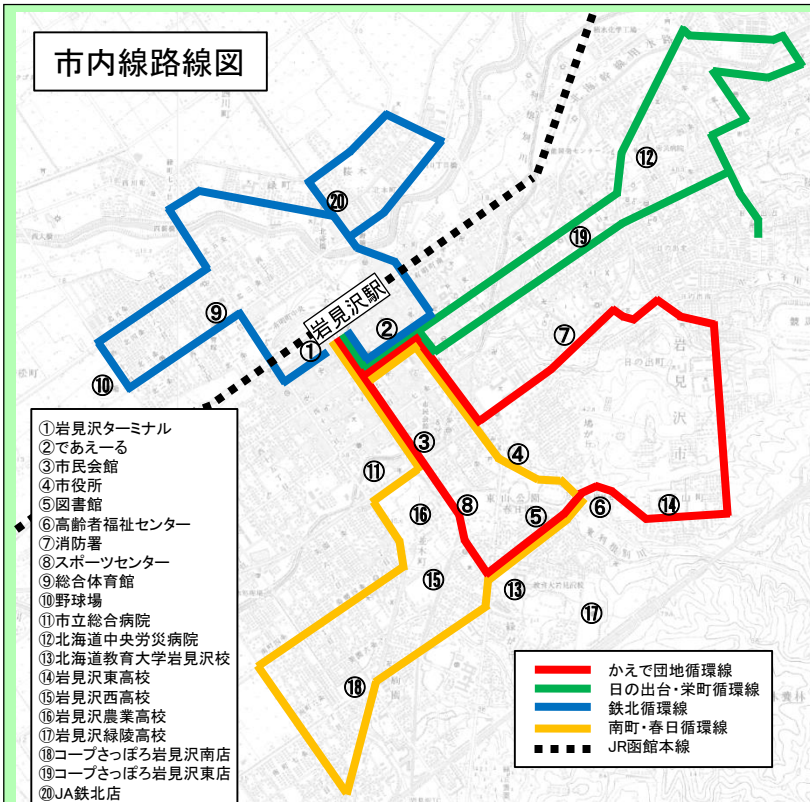
令和5年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

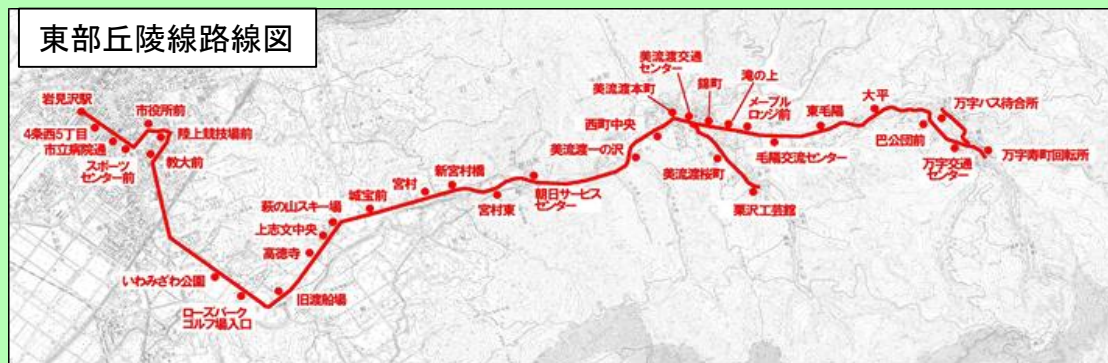
- ・JR、地域間幹線系統につながる市内線として4つの循環線を運行。両回りを運行することで、便数の減少に対して利便性を向上させた。
- ・循環線を全てターミナル以外の乗換拠点となる「であえーる」を経由させ、乗継しやすい環境を整備
- ・市内美流渡、万字等の東部丘陵地域において、通院や買い物等、地域の生活の足として「東部丘陵線コミュニティバス」を運行。
- ・交通空白地域において、移動手段確保のためのデマンド型乗合タクシーを運行
- ・R5は、バスを含む市内公共交通の利用促進及び乗務員確保を図るため、市広報誌に特集記事を掲載した。また、市内小学校の児童からバスに関する絵を募集し、応募作品をバス車内に展示する「バスの絵募集キャンペーン」を実施した。(応募総数248点)

2) 運行系統

市内線路線図



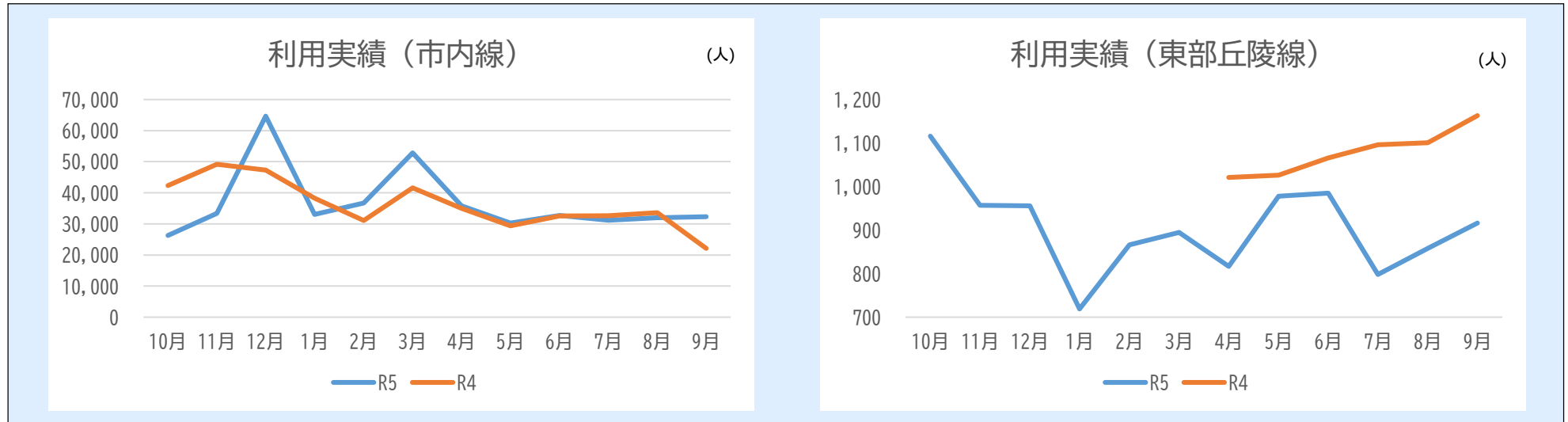
東部丘陵線路線図



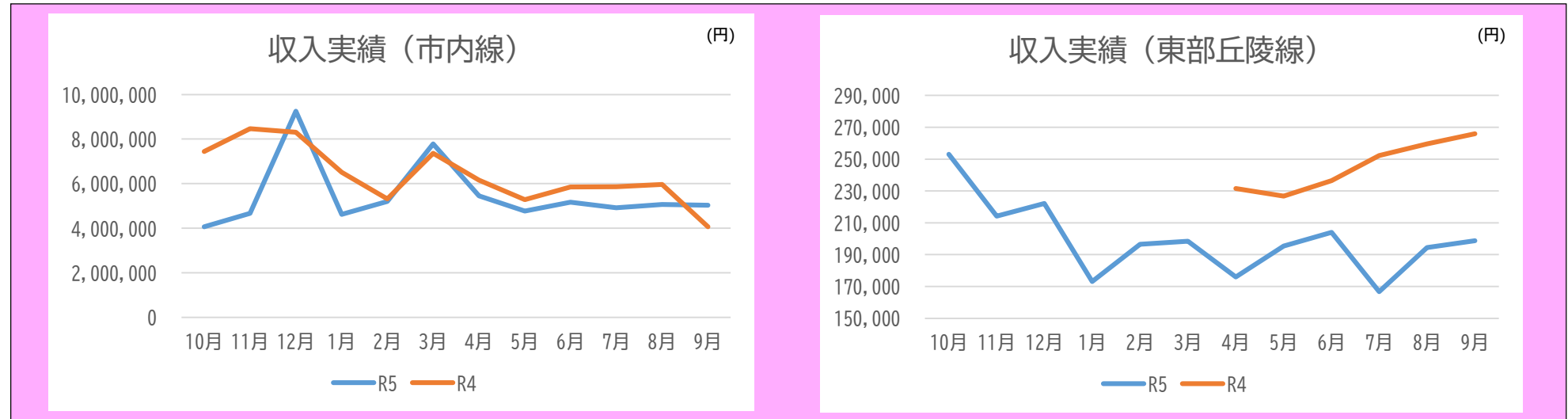
路線名	起点	経由	終点
かえで団地循環線	岩見沢ターミナル	東高先回り	岩見沢ターミナル、かえで団地
		国道先回り	岩見沢ターミナル、かえで団地
日の出・栄町循環線	岩見沢ターミナル	日の出先回り	岩見沢ターミナル、5東18、日の出
		栄町先回り	岩見沢ターミナル
鉄北循環線	岩見沢ターミナル	鉄北先回り	岩見沢ターミナル
		であえーる先回り	
		鉄北先回り・桜木	
南町・春日循環線	岩見沢ターミナル	であえーる先回り・桜木	岩見沢ターミナル
		美園先回り	
東部丘陵線	岩見沢駅	市役所先回り	岩見沢ターミナル、南町7-3、木工団地
		美流渡交通センター	万字バス待合所

※市内線：かえで団地循環線、日の出台・栄町循環線、鉄北循環線、
南町・春日循環線の合計（非フィーダー系統含む）
※東部丘陵線：令和4年4月運行開始

3) 利用実績



4) 収入実績



5)事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。
バスを含む、市内公共 交通の利用促進及び市乗務員の仕事の魅力発信を目的として、市広報誌に特集記事を掲載した。市内の小学校に通う児童からバスに関する絵を募集し、集まった作品をバス車内に展示する「バスの絵募集キャンペーン」を実施した。
※応募総数:248作品

6)目標・効果達成状況

市内線は、3路線5系統において、ダイヤ調整や運行便数の見直し等により、運行体制の最適化を図ることができたが、コロナ等の影響により減少した利用者は、未だ回復していない状況にある。また、コロナ禍を契機に乗務員等の離職が進んでおり、運行体制の維持が厳しい状況となっている。
東部丘陵線は、東部丘陵地域において、令和4年3月末に廃止されたバス路線の代替交通として、住民の生活上、必要不可欠な移動手段を確保することにより、通院・通学・買い物など多くの利用がある。

	項目	目標値(R5)	実績値(R5)
市内バス路線の目標	利用者数	850,000人/年	563,195人/年
	収支率	75.0%	88.1%
東部丘陵線の目標	利用者数	14,000人	10,861人
	経常収支	▲11,800千円以内	▲17,726千円
	自治体負担額	9,400千円以内	8,864千円

7)事業の今後の改善点

新型コロナウイルス感染症の影響による需要の減に対して、バス利用の回復と小学生等の将来の利用者確保を目指し、バスに興味を持ってもらい、利用したくなるような取組みを推進していく必要がある。

乗務員等の担い手確保については、周辺自治体も含めた共通課題として捉え、交通事業者や自治体間の連携を強化し、職場環境や仕事内容、乗務員の魅力等について、広く情報発信する取組みを行う必要がある。

東部丘陵線については、利用状況が初年度と比較して減少傾向にあるため、車両(2台)の効率的な運用により、燃料費や人件費等の圧縮を図る必要がある。

8)地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄
